

備え込 3.11から

The top image shows a green sign for '避難所' (Evacuation Shelter) with a person icon, located in '芦原市' (Aobanomori). The middle image shows a blue sign for '津波浸水警報発令時待避場所' (Tsunami浸水警報発令時待避場所) with a small school building icon. The bottom image shows a white sign with a green border and a green field icon, indicating a height limit of '0.9m' for '田舎道' (Country Road).

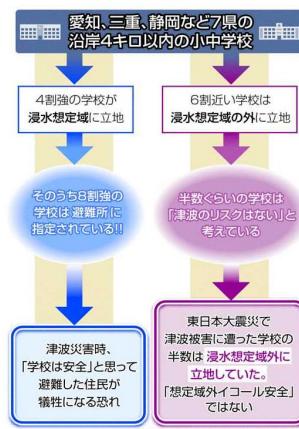
「代わり探すのは難しい」

地方に押し寄せたらどう考ふるか。『空恐ろしい』などと思つた」と語る。

教授のは、三年一一一三、『重山、静岡、高知、奈良、和歌山の七県で、沿岸や河口から四百四十五校の小中学校計一千四百五十五校にアンケート用紙を郵送。56・7%の回答があつた。浸水想定域に立地してゐる答えた学校は43・4%の三百五十四校。そのう

文部科学省の調査による
べ、東日本大震災に由る岩
手、宮城、福島三県で津波
に襲われた幼稚園や小学校
校、高校は百三十校にの
ぼる。
沿岸四区内にある学校数
を比べると、静岡、愛知、
県の三・三倍。東日本大震
災級の津波に襲われれば
被害は数倍になる恐れがあ
る。

7県 浸水想定域に立地4割



※教員教授らのアンケートを基に作成
さや海辺の地形も「定め外」を今に置くべきだと認めた。因此の教訓である。
東日本地方では、震災後も津波が来た時に刻々危険感があった。それが警鐘を鳴らすには、今までしか出来なかった。
受け止む日本本邦は、津波が遡れ、遡れで爆発した。これが一つの警鐘を鳴らすには、今までしか出来なかった。

各自体化が困難な所などに指定されている。異例で最も割合が高いのは徳島の69%、最も低いのは愛知の28・2%だった。

指定を引き受け
く、子どもの安
守る視点から、
民組織や行政と
きだ」と促して

避難所でもリスク

南海トラフによる津波が被害をもたらす避難の問題、三重・静岡県の沿岸部である小中学校は、津波に襲われる可能性があり、災害時の避難、安全地帯を指定する。そのため、東北福島への数々難航苦難（学校休業）、ループの活用などで浮かび上がった東日本大震災では、「避難所＝「ロール安全」と信じて学校に避難した住民が多く犠牲となつた。同じく震災で犠牲になつた」（赤川肇）

A bar chart showing responses to the question "Is there a risk of being infected?". The y-axis has two categories: "入っているか" (top) and "入っていない" (bottom). The x-axis shows percentages for each category.

Response	Percentage
入っているか	分から無い 3.3
入っていない	68.5
入っているか	0.7
入っていない	46.1
入っているか	0.7
入っていない	61.4
どちらとも言えない	ほとんどのない 40.9
どちらとも言えない	無回答 0.7
どちらとも言えない	28.4 14.9
どちらとも言えない	31.4 23.5
どちらとも言えない	0.7

(c) 中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています